いずみさの昔と今 第295回

「疫神と泉佐野」

疫神信仰は天然痘やコレラ、赤痢などの感染症や、風邪やそのほかの病気に対して病を運ぶとされる神を祀り、流行収束、病気平癒を祈願するものです。

日本では、6世紀頃に朝鮮半島で流行したと考えられている疱瘡（ほうそう、天然痘といわれる）、平安時代以降に流行した現在の麻疹といわれる赤班瘡（あかもがさ）などが史料に登場します。特に天平年間（735～738）の疫病大流行では、平城京で政権を担った藤原四兄弟や他の高位貴族が相次いで死去したため、朝廷の政治を担う者が減少、大混乱に陥りました。この流行は疫病による政治的打撃だけではなく、奈良大仏造立の大きな契機となったことでも有名です。遡って6世紀、敏達天皇の頃の流行では、崇仏論争の真っ只中であり、「仏教普及をすすめたことで日本古来の神を蔑ろにした神罰」という見方が広まり、蘇我氏の影響力が一時的に低下したともいわれています。

疫病は目には見えず、また医療が未発達であった当時の日本では神や鬼が運ぶもの、すなわち疫神・疫鬼（えやみのおに）のもたらす神罰・仏罰が原因と考えられました。そのため、古代における疫病には、役行者のような山林で修業する宗教者による祈祷や薬草知識（のちの修験者）、陰陽師による陰陽五行思想を用いた呪術的行為などで対応し、平安時代以降には寺社での祈祷、修験者・陰陽師による呪い（まじない）、祭祀（鎮祭）などが行われました。

平安時代以降、疫病や災害に対して「政争で敗れた者による祟り、すなわち怨霊（菅原道真、平将門など）による仕返しである」と考えるようになり、そうした霊を祀れば御霊（ごりょう）として身を護ってもらえるという信仰が広まりました。これを「御霊信仰」とよびます。また、類似するものとして「疫病信仰」があり、怨霊ではなく疫病をもたらす神（牛頭天王、かぜの神、疱瘡神など）を祀りました。泉州では牛頭天王が最も有力で、蘇民将来札とともに重宝されました。和泉市池田寺跡、泉南市岡中西遺跡などでは呪符木簡が出土しており、泉南市の事例では「九九八十一、八九七十二　急急如律令」と刻まれたものが見つかっていることから疫病に対する祈祷の痕跡であるとされています。泉佐野市域の疫神信仰としては牛頭天王、八王子、摩多利神などがあり、日根荘や江戸期以降の市域の各村々で信仰されていました。

特に中世の土丸・大木地区では疫神である牛頭天王や、方位神である大将軍に関する祭祀を行っていたようであり、九条家文書には「大将軍ノ五節供」「五頭天王五節供」と記され、各祭祀用の年貢が取り決められていたことが分かります。大将軍や牛頭天王は暦や方位に関する神々であるとともに、季節ごとに移動して人々に厄（疫）をふりまく神としても認識されたため、疫病や災害を恐れる中世の人々は篤く信仰しました。

牛頭天王は明治の神仏分離令などでスサノオへ転換、牛頭天王を祀る諸社は八坂神社へ習合され、現在ではみる影もなくなりました。次回以降は牛頭天王や方位に関する話を夏季開催の特別展に合わせて紹介します。

▶災いをまねく神、金神（歴史館いずみさの蔵）

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日　月曜日、祝日（祝日が月曜日の場合は月曜日と火曜日が休館）
開館時間
午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
入館料　無料

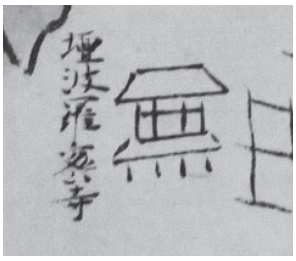
日本遺産・中世日根荘を巡る⑫

～絵図編（11）「檀波羅密寺」～

JAPAN HERITAGE 日本遺産

「日本遺産」に認定された「旅引付と二枚の絵図が伝えるまち ―中世日根荘の風景―」のストーリーを構成する泉佐野市の文化財等を紹介します。

問合先　文化財保護課



◀日根野村絵図に記された「檀波羅密寺」

檀波羅密寺文字・梵字瓦▶

「檀波羅密寺」は、約700年前に日根野村荒野開発絵図の左下隅に「熊野大道」に沿った場所に堂宇が一棟描かれた寺院です。かつて檀波羅丘陵から市場町まで大きな寺域があり、その一部が上町の観音堂や市場の如来寺、熊取町五門西にある慈照寺に伝わっていますが、応永6（1399）年に大内義弘の応永の乱で焼失したといわれ、存在は知られるものの長らく幻の寺となっていました。

現在は府道30号の標識「ダンバラ公園前」や、「檀波羅公園（檀波羅公園墓地）」などの名前にその名残が見られますが、場所や内容については国道26号や店舗などの工事に伴う発掘調査によって、次第に明らかとなってきています。なかでも寺院の建造物に葺かれた瓦が大量に廃棄されている中に混じって、「檀波羅密寺」の名前が陽刻された軒平瓦や梵字を入れた軒丸瓦が出土し、これにより年代も平安時代末期から鎌倉時代のものであることが確実となっており、絵図に描かれた寺院の姿が明らかとなるのも、そう遠い日ではないかもしれません。

※絵図の写真は、歴史館いずみさの所蔵の複製を使用（原本は宮内庁書陵部所蔵）